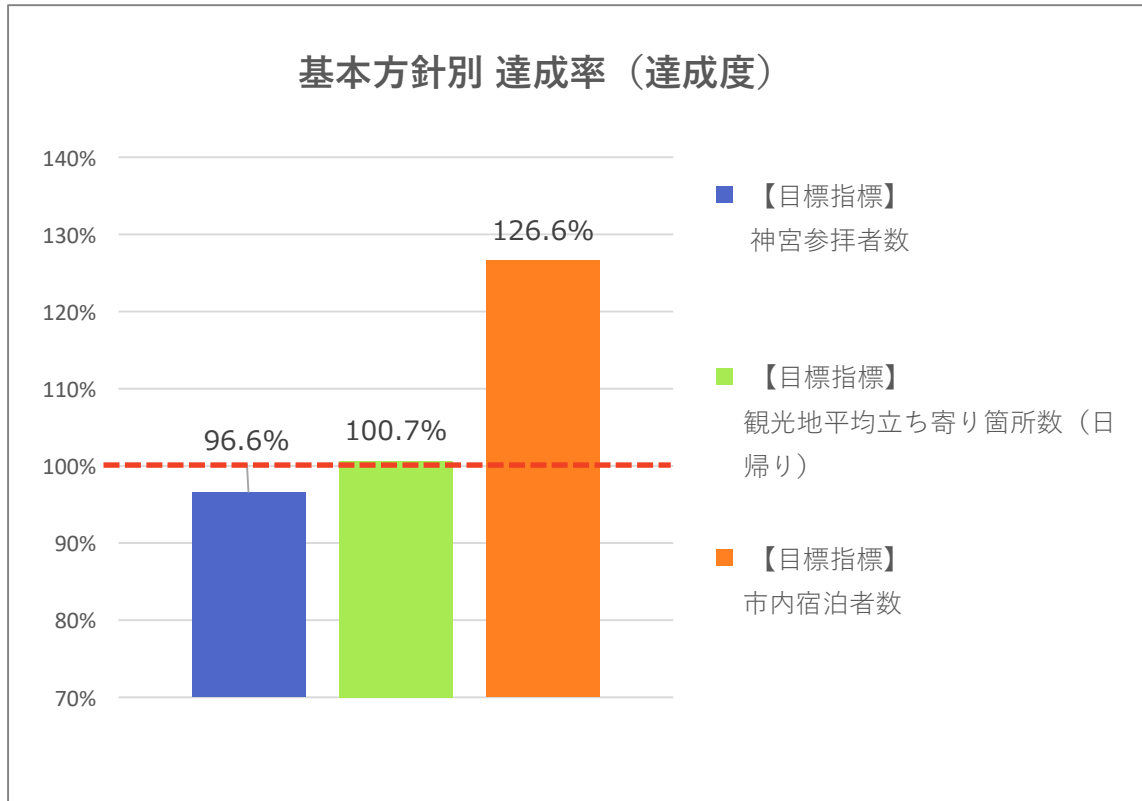


# 伊勢市観光振興基本計画 令和7年度検証結果

## ●目標指標（KGI）に基づく検証

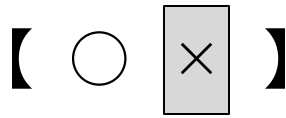
〈全体〉



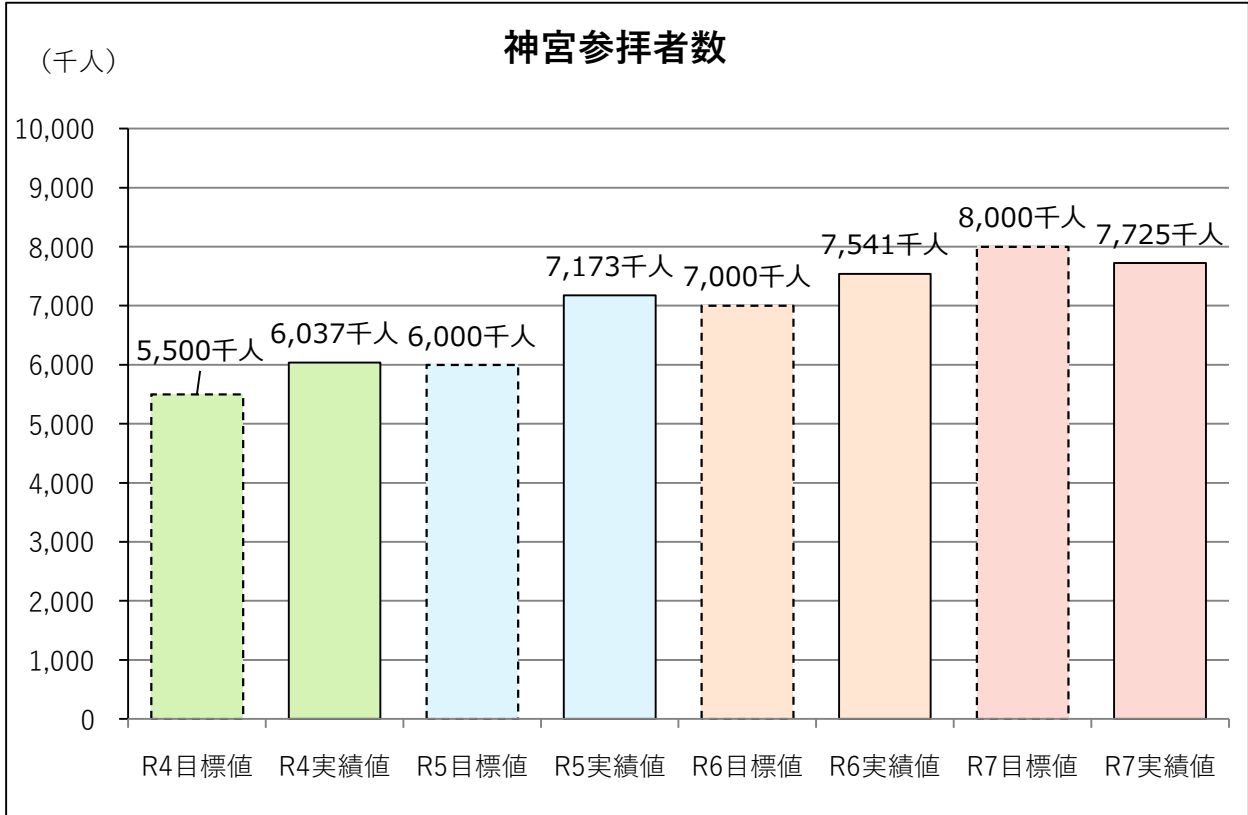
指標ごとの達成率を見ると、「観光地平均立ち寄り箇所数」、「市内宿泊者数」の2指標は目標値を達成したが、「神宮参拝者数」は目標値未達となった。

令和7年は、神宮参拝者数は目標値に対して96.6%と達成することはできなかったが、第63回神宮式年遷宮の諸祭・諸行事の始まりもあり、前年と比べ2.4%の増加となった。周遊や分散の指標である観光地平均立ち寄り箇所数（日帰り）は、目標値の100.7%で達成し、前年と比べ17.5%の増加となった。調査を開始した平成26年以降では最も高い実績値となった。市内宿泊者数は、目標値の126.6%で達成し、前年と比べ2.4%の増加となった。市内の宿泊施設増加もあり、平成元年以降で最も高い実績値となった。

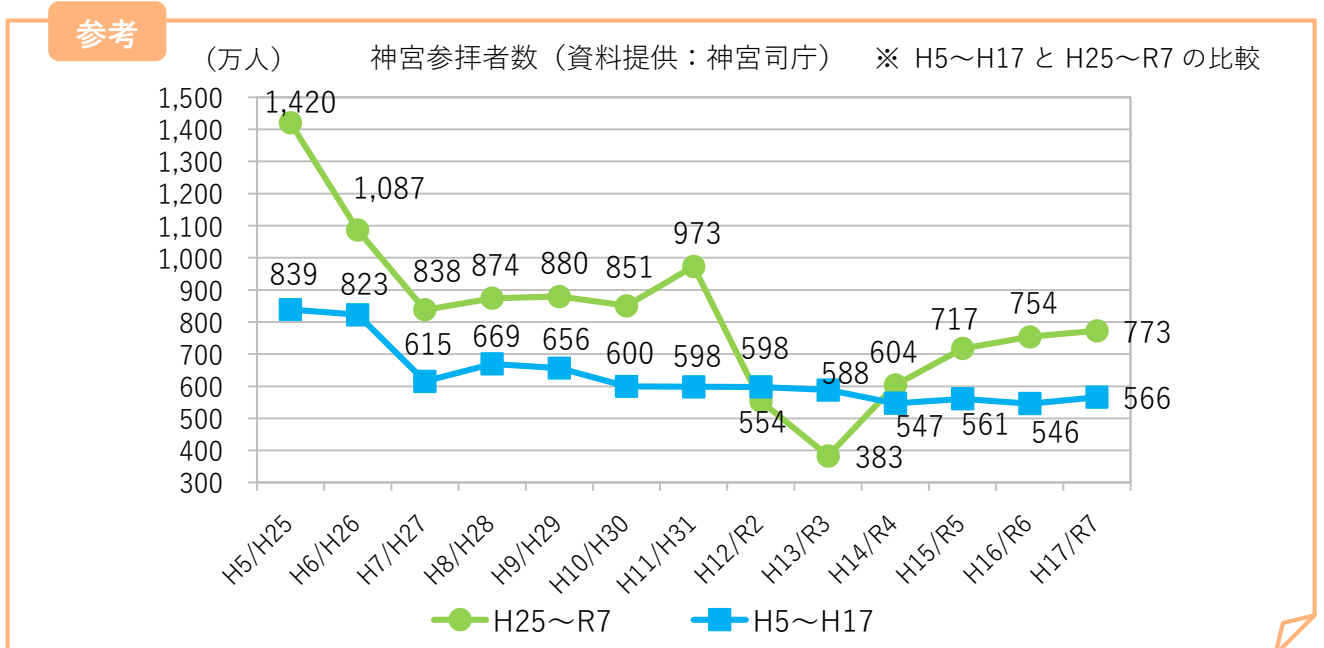
〈1. 神宮参拝者数〉



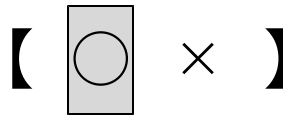
・令和7年の神宮参拝者数は772.5万人で目標値800万人に対して達成率は96.6%、前年754.1万人に対しては18.3万人（2.4%）増加した。



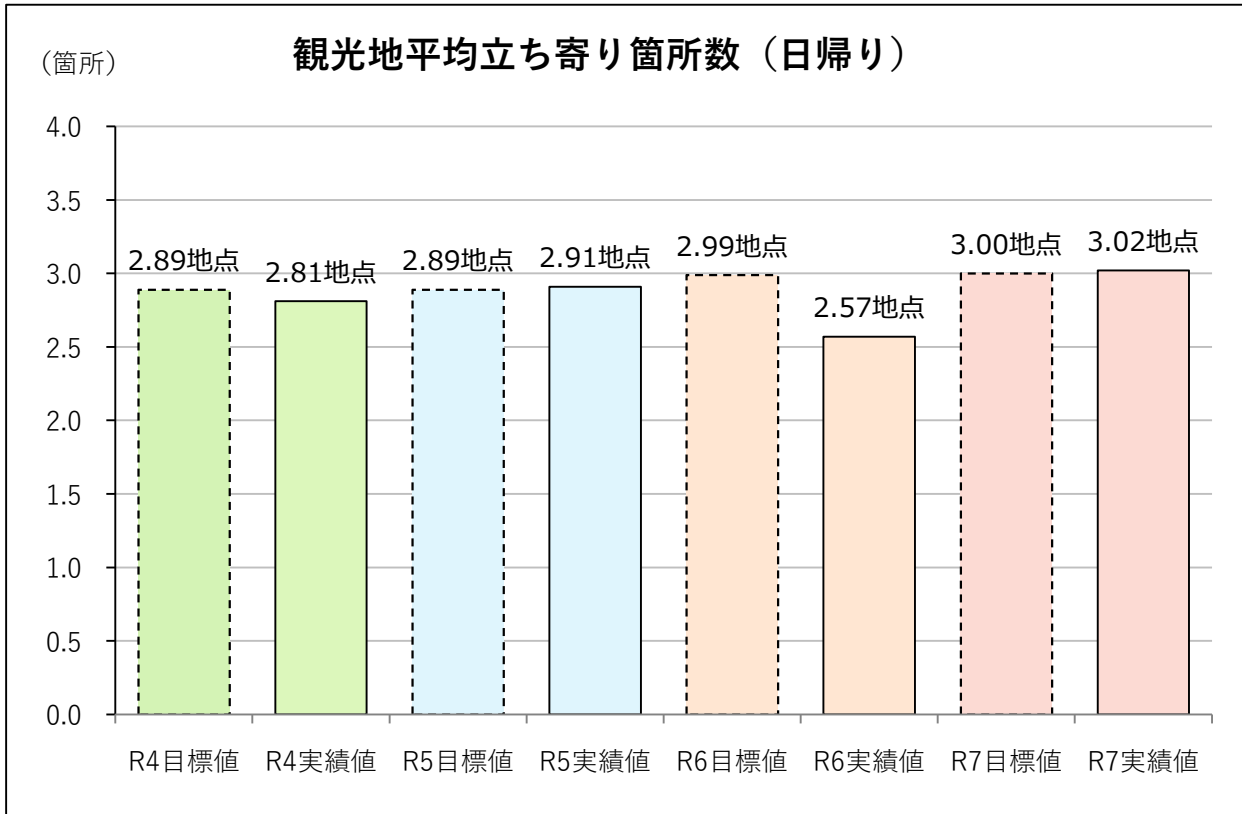
【検証】第63回神宮式年遷宮の諸祭・諸行事が始まった令和7年の神宮参拝者数は、外宮・内宮の両宮合計が年間約772.5万人となり、前年から18.3万人（2.4%）増加した。月別増減では、令和6年から令和7年にかけての年末年始は、最大9連休であったことから1月の参拝者は増加。2月は令和6年がうるう年であったほか、中旬に津以北の降雪、下旬にかけては各地で大雪が観測されたこともあり減少した。春から秋にかけては、毎週末雨天が続いたことや酷暑、大阪・関西万博開催の影響もあったためか、大幅な増加とはならなかったが、気候が落ち着いた11月は、前年比で大幅な増加となった。



## 〈2. 観光地平均立ち寄り箇所数（日帰り）〉



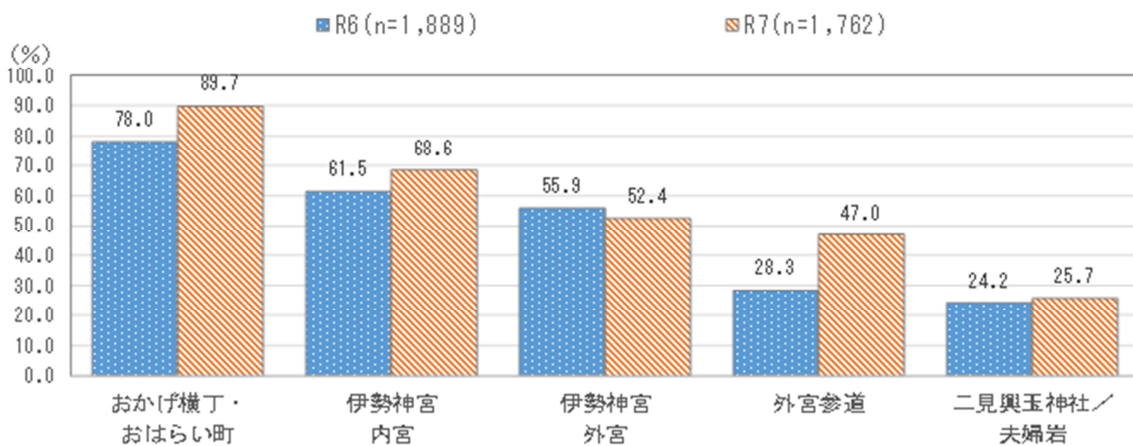
・令和7年の観光地平均立ち寄り箇所数（日帰り）は3.02地点で目標値3.00地点に対して達成率は100.7%、前年値2.57地点に対して17.5%増加した。



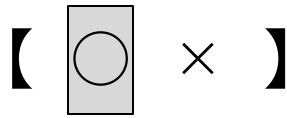
【検証】 令和7年の観光地平均立ち寄り箇所数（日帰り）は3.02地点であった。調査を開始した平成26年以降では最高値となり、外宮エリアや二見エリアへの立ち寄りが増加するなど、周遊・回遊の促進が見られた。引き続き市内の新たな魅力の発掘や情報発信を続けていくことが重要である。

### 参考

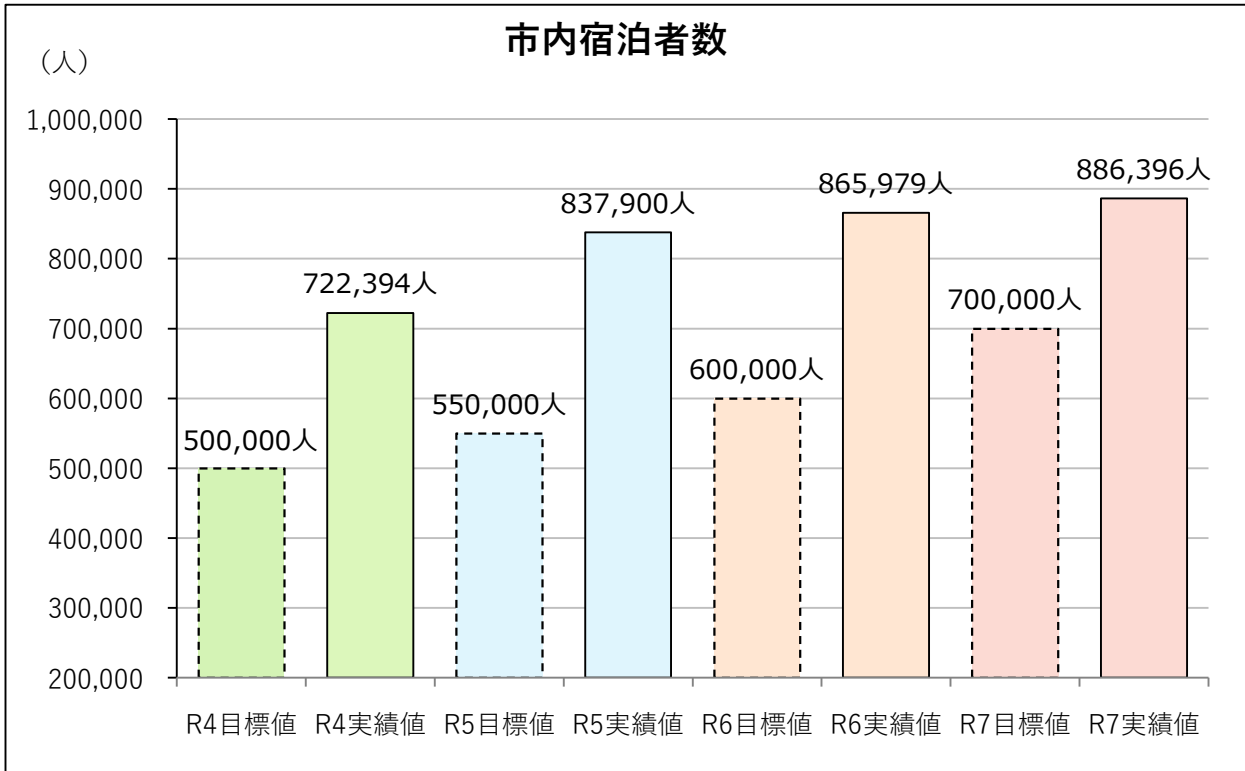
立ち寄った観光地〔上位5位〕（出典：伊勢市観光客実態調査）



### 〈3. 市内宿泊者数〉

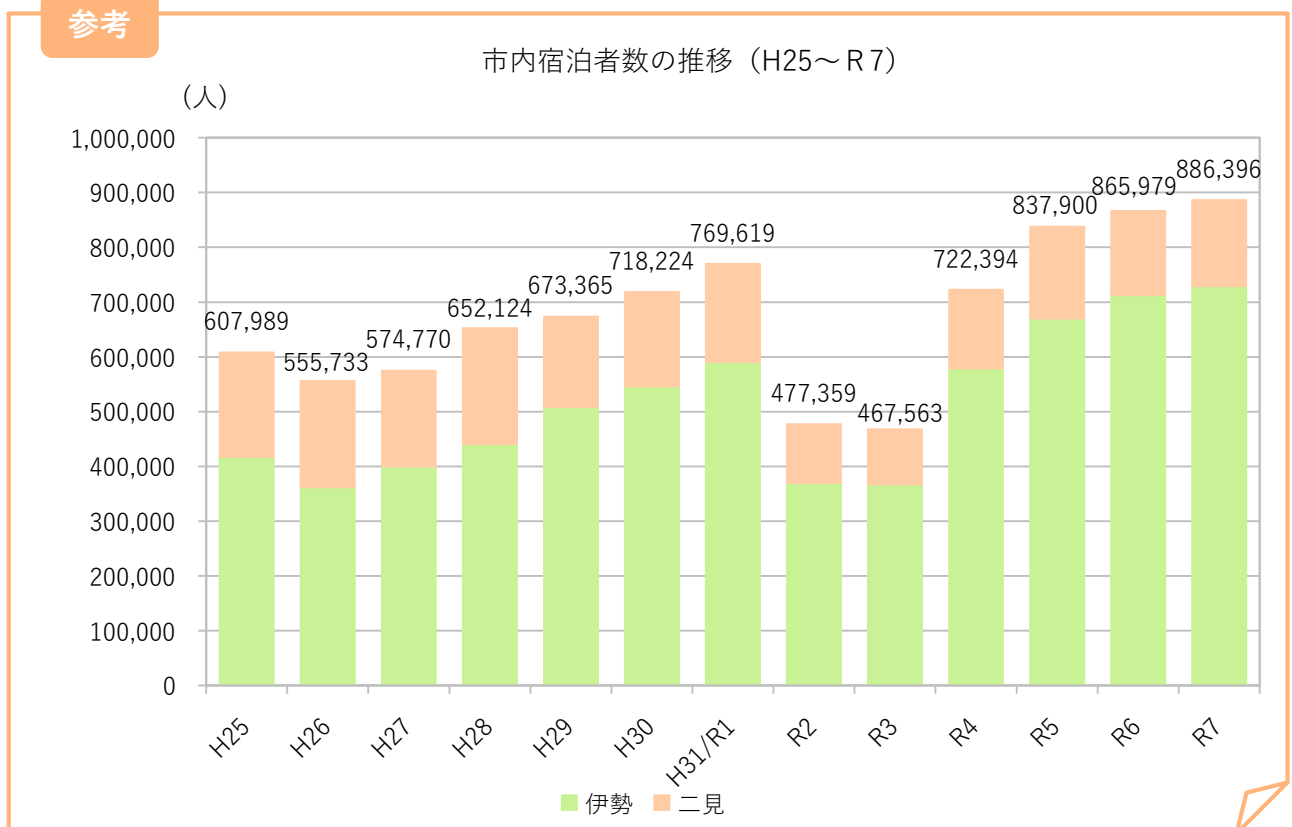


・令和7年の市内宿泊者数は886,396人で目標値700,000人に対して達成率126.6%、前年値865,979人に対しては約2万人(2.4%)増加した。



【検証】 目標値と前年値を上回る結果で、平成元年以降最多となった。市内立ち寄り箇所数の増加との相関や宿泊施設の増加が一因と考えられる。市内宿泊者数の増加は観光消費の拡大を図り、観光による地域経済への波及効果を一層高めていく効果があり、今後も増加を目指すことが重要である。

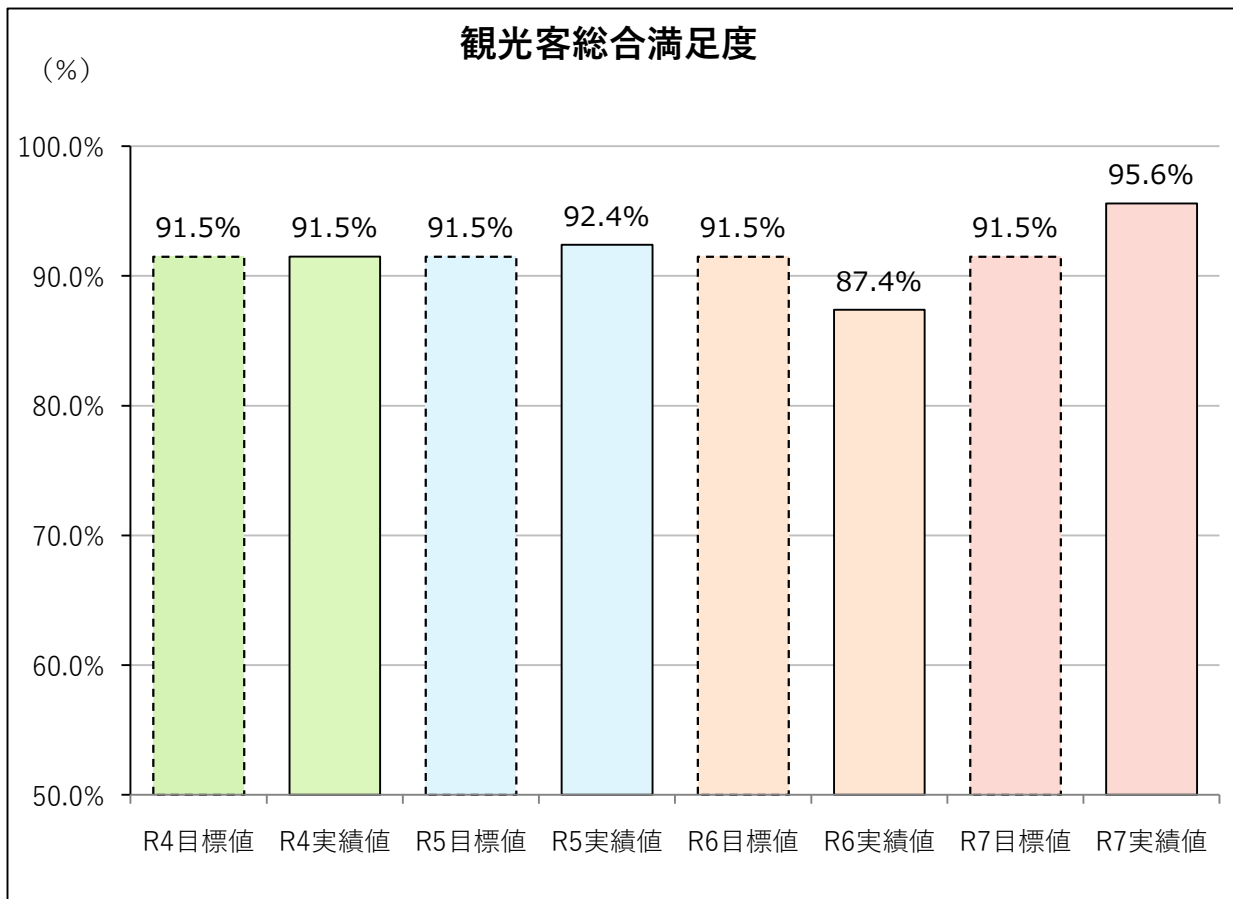
#### 参考



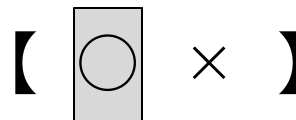
## ●基本方針に基づく取組みと検証

### 基本方針1 「神宮を中心とした物語性」の発掘・展開 【 × 】

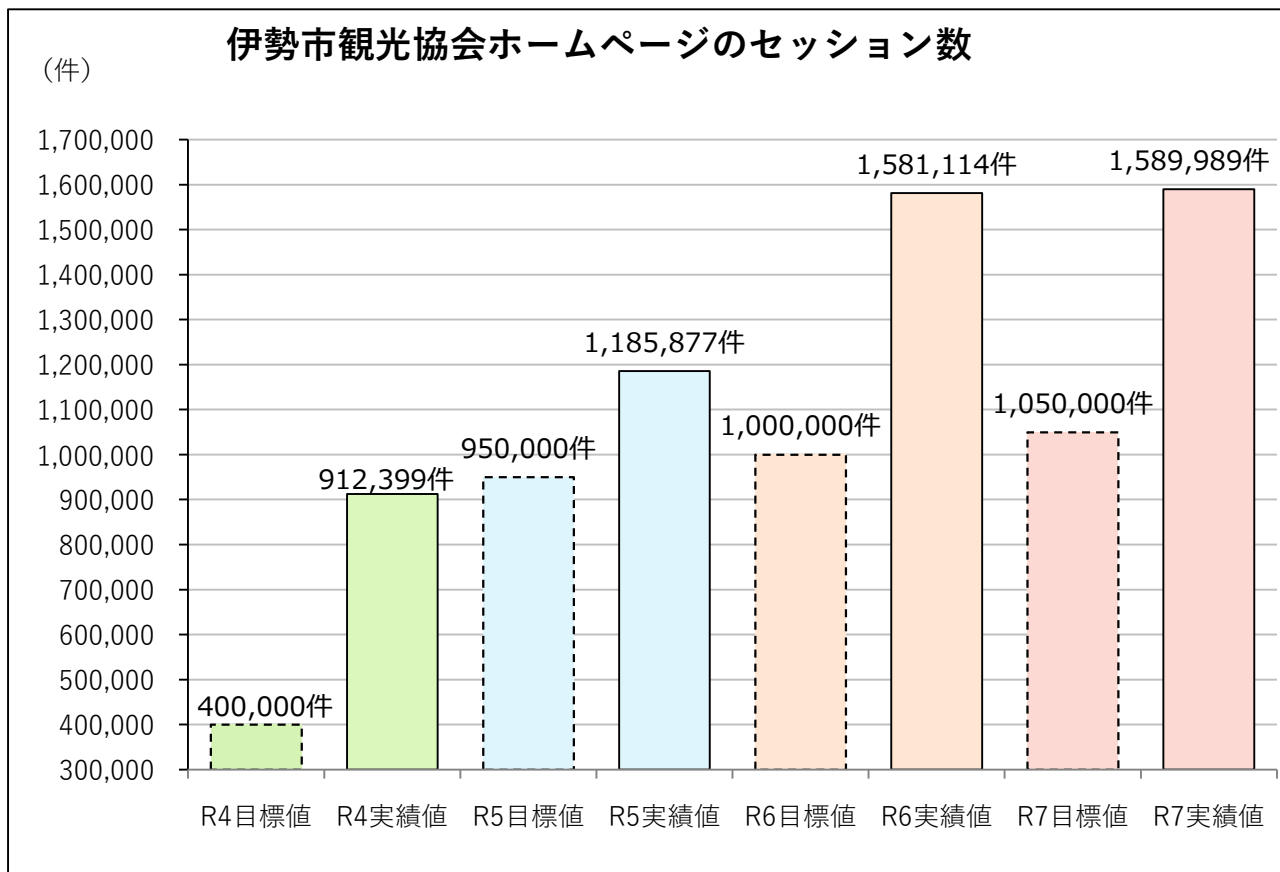
神宮を中心とし、伊勢市全体に広がる観光資源や精神性の魅力を再度地域の人々、そして伊勢市を愛する市外の人々も巻き込んで掘り起こし・磨き上げPRすることで、新たな交流を生み出します。



- 目標に対して達成率 104.5%となり、目標値を達成した。
- 調査を開始した平成 26 年以降では最も高い実績値となっており、満足度調査 9 項目のすべてで令和 6 年よりも上回っている。
- 観光客実態調査の結果では、3 回以上訪れているリピーターの割合が 5 割を超えていることから、伊勢に対して良い印象を持っていただいた観光客が再訪していただいていると推測される。さらなる再訪意欲や初来訪にも繋げるために満足度を堅持していく必要がある。

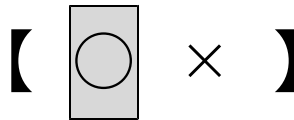


情報発信や来訪をきっかけに、伊勢市の持つ歴史文化や物語性の魅力に共感していただき、もっと伊勢に関わりたいという人を増やし、単なる観光を越え、更に強くこの伊勢の地域とつながりを持つ「関係人口」の創出があわせて必要となっています。

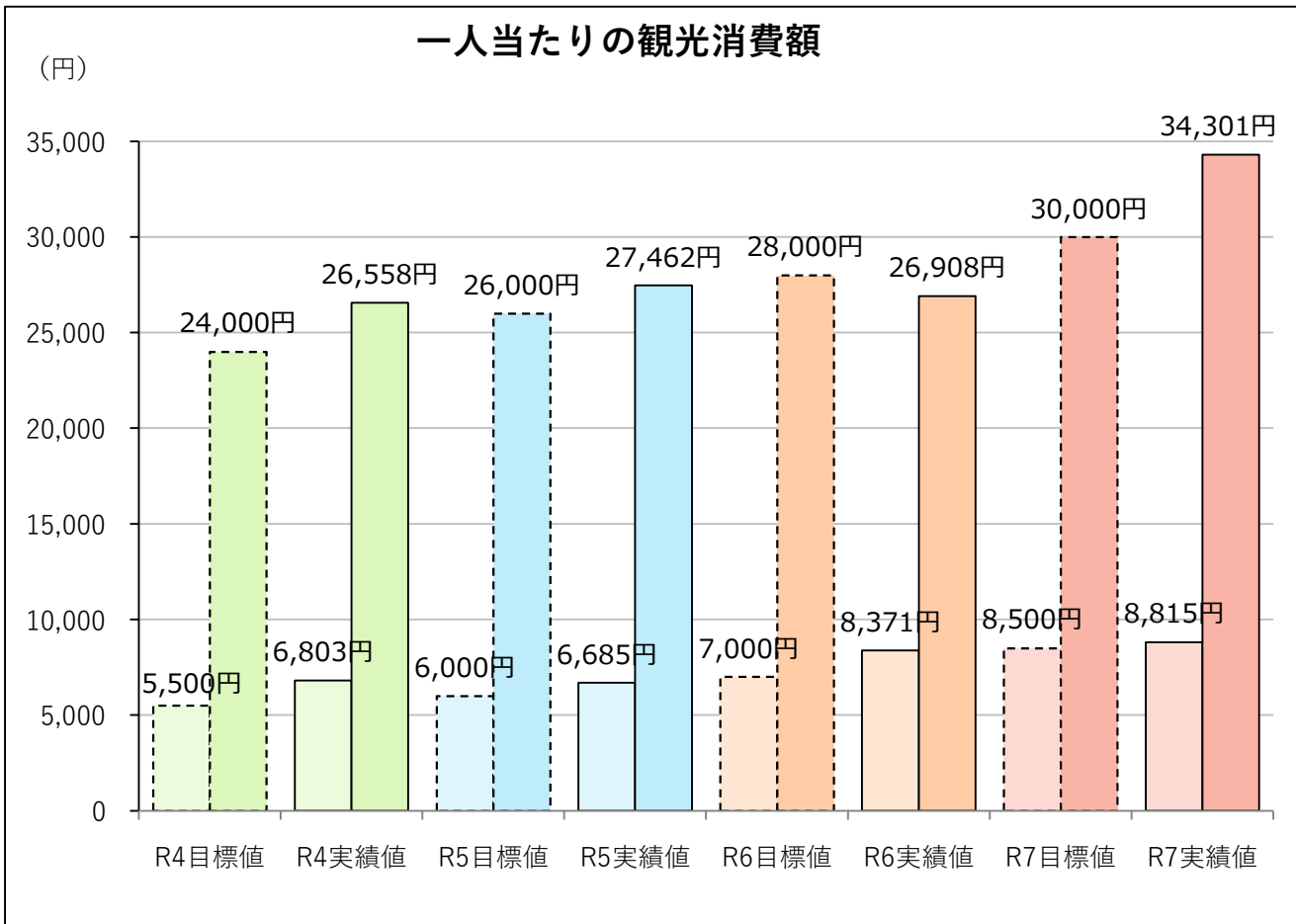


- 目標に対して達成率 151.4%となり、目標を大きく上回る実績となった。
- ホームページのセッション数が堅調に推移していることから、デジタル化の進展で観光情報を携帯端末で入手する旅行者が主流化している傾向がある。
- 周遊観光の根幹となり得る情報集約サイトとして、引き続き観光客に有益な情報掲載と SEO 対策（検索流入の拡大）を行っていく必要がある。

### 基本方針3 産業視点での観光の推進



観光とは、人生の楽しみであると同時に、観光地に住む人々の暮らしを豊かにする重要な要因の一つです。地域の人々を豊かにするには、産業としての視点をもって、消費を生み出し、地域に継続して効果を波及させることが重要です。そのために、マーケティング調査や、調査に基づく戦略の構築・実行、消費を促進するための観光資源へのストーリー性が求められます。

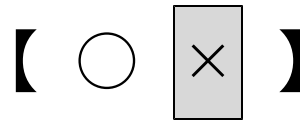


- 目標に対して日帰りは達成率 103.7%、宿泊は達成率 114.3%となり、目標値を達成した。
- 日帰りの消費額は土産代、飲食費、入場料が前年に比べ同額以下であるのに対し、パック代金は上昇している。物価上昇に加え、旅行商品需要の増大や高付加価値が考えられる。
- 宿泊の消費額は、宿泊費、土産代、飲食費、入場料、交通費、パック代金が前年に比べ増加している。特に、宿泊費とパック代金が大きく増加しており、物価上昇の影響を受けたことも一因と考えられる。

<参考> 令和7年市内平均消費額 (令和7年伊勢市観光客実態調査)

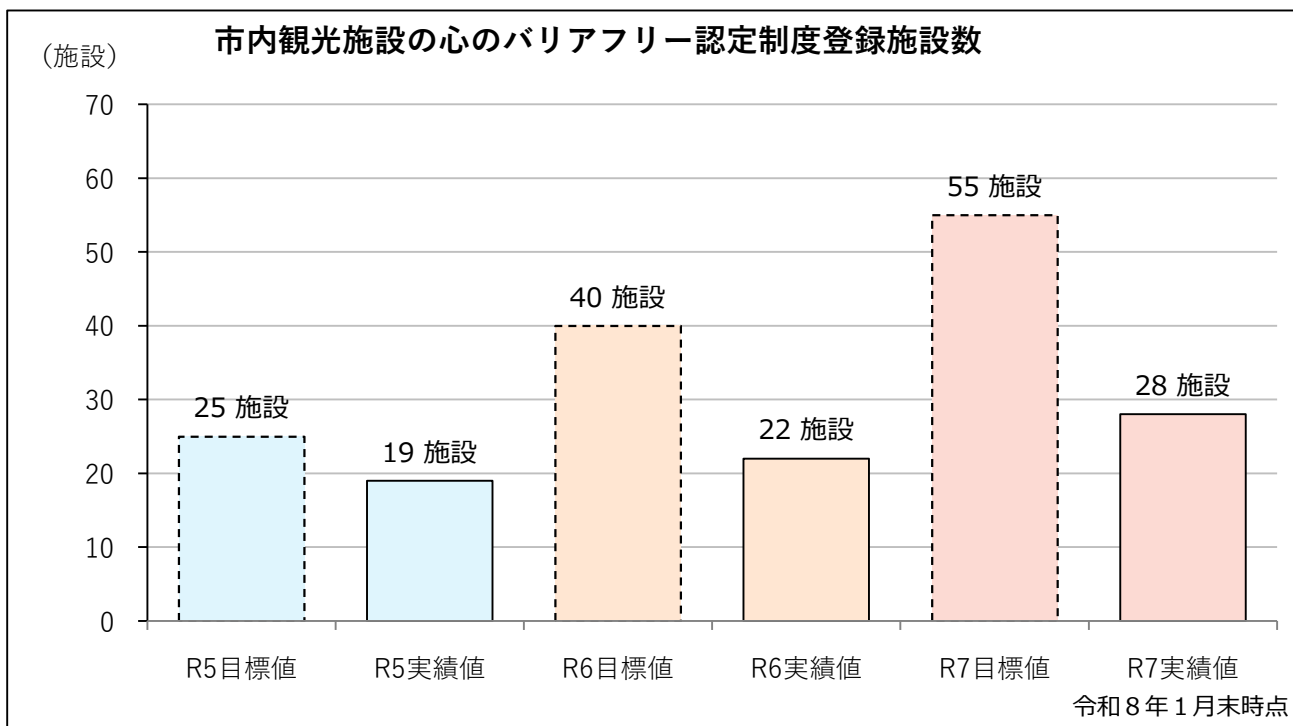
区分		宿泊費	土産代	飲食費	入場料	その他	交通費	パック代金	総額
日帰り	消費額	—	2,486円	3,374円	193円	234円	864円	1,664円	8,815円
市内宿泊	消費額	16,764円	5,376円	7,043円	528円	432円	1,437円	2,721円	34,301円

## 基本方針4 安全・安心な受入環境・受入基盤の整備



伊勢市には神宮をはじめとした多種多様な資源があり、特に歴史文化を感じる観光におけるポテンシャルには特筆すべきものがありますが、一方で、観光ニーズは多様性を極め、日々、求められる条件は変わりつつあります。近年においては、新型コロナウイルス感染症や自然災害などへの備えや、多様性に対応した受入環境なども求められています。

これらのニーズへの対応のためには、最新のデジタル技術の活用や、多様な主体による受入環境の構築に取り組み、伊勢のまちを形作る歴史文化とのバランスを取りつつ、訪れる人も住む人も双方が満足できる受入基盤の構築が必要です。



- 目標に対して達成率 50.9%と目標未達となった。
- 28 施設の内訳は、19 施設が宿泊施設、6 施設が飲食店、3 施設が観光案内所となっている。
- 特定非営利活動法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターと協働し、心のバリアフリー認定制度研修会等の普及促進活動を行った。目標達成には及ばなかったが、着実に認定数は増加している。

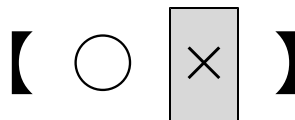
### <参考>

令和7年12月末時点の登録数

全国：3,528 施設

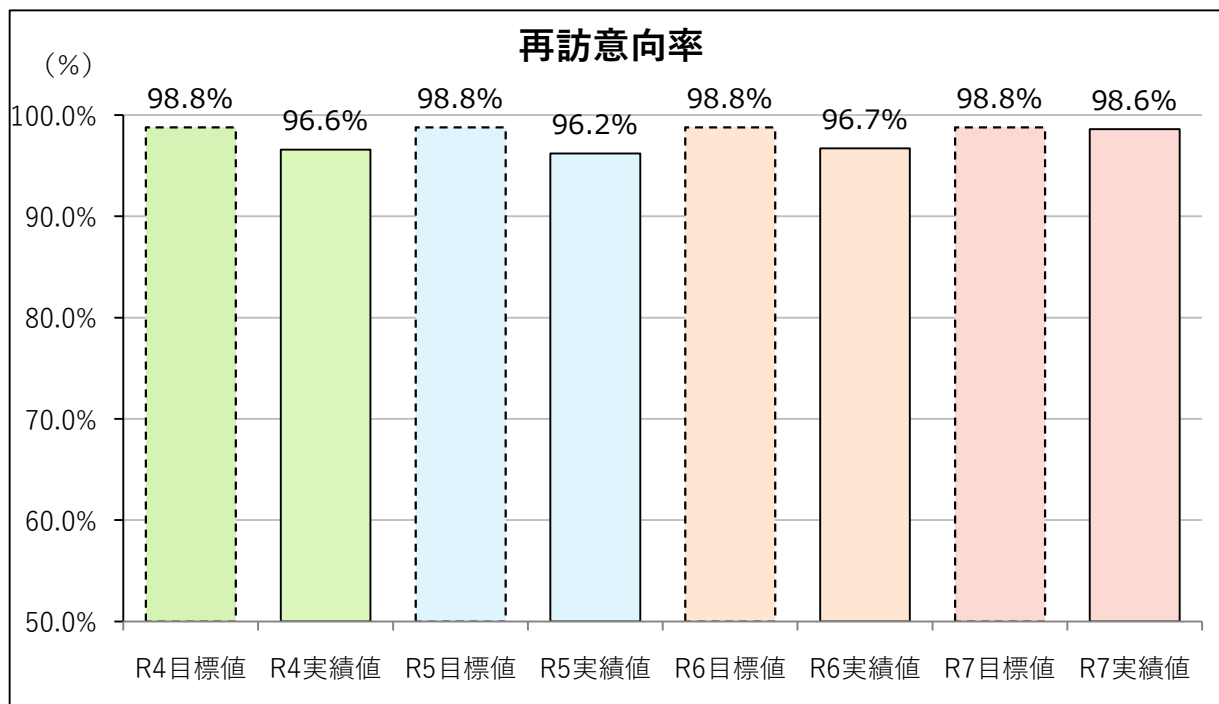
三重県：141 施設、伊勢市：27 施設、鳥羽市：25 施設、志摩市：19 施設

## 基本方針5 「共生と競争」の視点での連携の推進



観光誘客や観光コンテンツの開発においても、伊勢市単独ではなく、周辺自治体と連携し、お互いの魅力を掛け合わせることで、多様なニーズに応じた選ばれる観光地域としてより効果的な情報発信が可能になります。

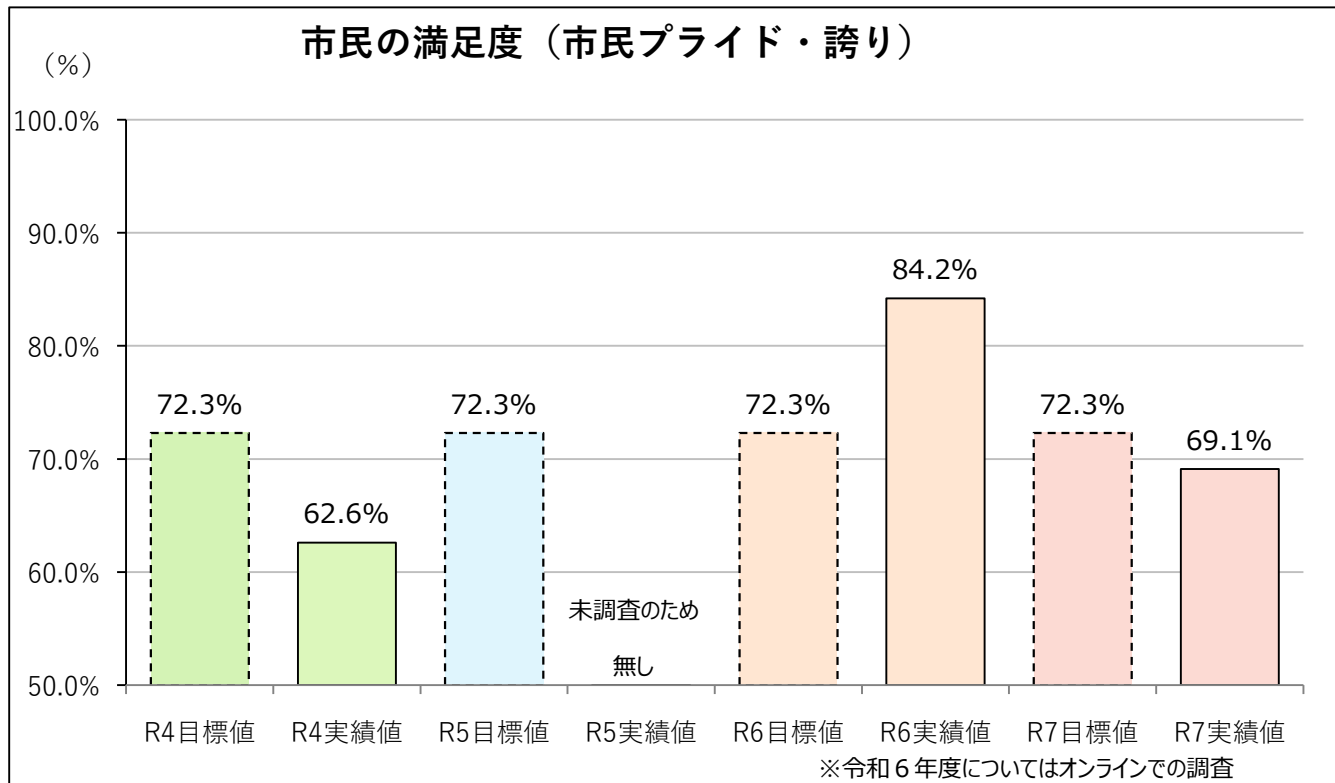
また、このコロナ禍による観光客の減少を伊勢市の観光を見つめ直す機会と捉え、ウィズコロナ・アフターコロナにおいても、周辺地域との「共生」だけではなく、時にはライバルとして「競争」し、互いが切磋琢磨することによって、双方の持つ地域資源やコンテンツの魅力を高め、更なる発展を目指します。



- 目標に対して達成率 99.8%とわずかに目標未達となった。
- 調査を開始した平成 26 年以降から 2 番目に高い実績値となっている。
- 目標は未達成であるものの、現行計画の 4 年間に於いて 96%以上と高い水準での再訪意向を維持している。
- 伊勢市及び周辺地域が観光客に繰り返し選ばれる観光地となるため、地域間連携を推進していく必要がある。

基本方針 6 市民・地域の「おかげさまの心」の醸成と連携の強化 【 ○ × 】

市民がこれまで多くの観光客を迎え入れ、繁栄してきた伊勢市の観光文化について学ぶ機会を設けることで、「おかげさまの心」をもって観光客を迎え入れることへの誇りを醸成することが大切です。そのうえで、地域が一体となって観光客を迎え入れる観光地として発展し続けることを目指します。



- 目標に対して達成率 95.6%と目標未達となった。
- 目標未達ではあるものの、令和4年から比べると伊勢の歴史文化や観光地としての市民プライド・誇りは高まっている。令和8・9年のお木曳行事は市民が主役になる機会であることから、文化や観光への関心を高めていく必要がある。
- 今後、令和15年の第63回神宮式年遷宮に向け、観光客の維持・拡大を図る好機である。観光の賑わいだけでなく、市民生活とのバランスも意識した施策の実施が必要となる。

※令和6年はオンライン調査であり、郵送調査である令和4・7年と比べ回答年齢層に差異が生じている。

調査年 (回答数)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
R7 (1,228)	2.9%	6.3%	9.1%	11.1%	14.8%	17.0%	20.8%	17.8%
R6 (1,238)	0.2%	4.3%	21.2%	20.0%	19.1%	22.2%	10.6%	2.0%

(未回答により合計は100%にはなりません)